

2021年8月末発売予定

北井一夫写真集 『COLOR いつか見た風景』

1970年代の日本とフランス、 未発表作を含む、カラー作品 68 点を掲載

北井一夫は1944年満州鞍山生まれ。日本大学芸術学部写真学科で学ぶ。1976年に第1回木村伊兵衛写真賞を受賞。代表作に『三里塚』、『村へ』、『いつか見た風景』、『フナバシストーリー』、『1990年代北京』、『過激派の時代』など。国内外を旅しながらドキュメンタリー写真を軸として、自然やその地で暮らす人々の日常にカメラを向けてきた。

本作品集では、1970年代の高度経済成長期のいっぽうで、失われようとしている農村の営みをとらえたカラー版『いつか見た風景』をはじめ、これまで未発表だった「フランス放浪」を含むカラー作品68点を掲載。老若男女を問わず、多くの人を魅了してやまない、心の中の内風景がここにある。

「雑誌からの依頼で撮った写真はカラースライドが多かった。カラーとモノクロームの関係を振り返って考えてみれば、モノクロームが私の写真人生の裏街道で、カラーは少し気が引けて遠慮がちに歩いた表街道だったような気がする」 — 北井一夫



※合同会社 PCT (ピクト) は、元・日本カメラ社のメンバーだった3名が今年あらたに創業した新会社

定価：3,500円+税

88頁 / 235×235mm / カラー / ハードカバー
ISBN978-4-910646-00-8 C0072



●作者プロフィール 北井一夫 (きたい・かずお) 1944年、中国鞍山に生まれる。1965年、日本大学芸術学部写真学科中退。同年、『抵抗』(未來社)を自費出版。1969年、成田空港建設に反対する三里塚の農民を取材し、1972年、写真集『三里塚』(のら社)にて日本写真協会新人賞受賞。1976年、『アサヒカメラ』誌に連載したシリーズ「村へ」にて第1回木村伊兵衛写真賞受賞。主な展覧会に「タイムトンネルシリーズ Vol.20 北井一夫〈時代と写真のカタチ〉」(2004年・ガーディアン・ガーデン)、「いつか見た風景」(2012年・東京都写真美術館)など。主な写真集に『村へ』(1980年・淡交社)、『新世界物語』(1981年・長征社)、『フナバシストーリー』(1989年・六興出版)、『いつか見た風景』(1990年・蒼穹舎)、『1970年代 NIPPON』(2001年・冬青社)、『流れ雲旅』(2016年・ワイズ出版)、『過激派の時代』(2020年・平凡社)など。エッセイ集に『写真家の記憶の抽斗』(2017年・日本カメラ社)がある。

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922

mail:info@tsubamebook.com
TEL:03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名(番線印) ご担当: 様	PCT 新刊 info@photoandculture-tokyo.com 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人	
	注文数	『COLOR いつか見た風景』 北井一夫 ISBN978-4-910646-00-8 C0072 定価: 3,500円+税